

令和元年度第3回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日時 令和元年8月9日(金)15:00～16:30

2 場所 市民交流プラザふくちやま 会議室4-1

3 出席者

委員	青山委員長、大久保委員長職務代理、菊田委員、中井委員、細見委員
福知山市	岸本課長、井上係長、倉主事
福知山公立 大学	山本事務局長、竹友事務局次長、内田GM、外賀AM、矢野

4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	【議題】 平成30年度公立大学法人福知山公立大学業務実績評価について	【資料1～3】により業務実績評価書の原案の修正審議を行った。
2	【報告事項(1)】 平成30年度公立大学法人福知山公立大学財務諸表等について	【資料4、5】により、財務諸表及び剰余金に係る事務局確認事項を報告した。 ⇒財務諸表及び剰余金を翌年度に目的積立金として繰り越すことを承認。
3	【報告事項(2)】 公立大学法人福知山公立大学役員報酬額の変更について	【資料6】により、公立大学法人福知山公立大学役員報酬額の変更を報告した。 ⇒評価委員会として、役員報酬額の変更について意見書を福知山市長に提出しないこととした。
4	【その他】 中期目標の変更について	【資料7、8】により中期目標の変更予定について報告した。
5	意見交換・質疑等	(主な意見) 【議題】 ● 大学の事務システムは洗練されたパッケージであるという前提で、たくさんの大学法人で使われたことで様々なバグも消滅して、安定して稼動するものを選ばれていると思うので、完成年度迎えるまではこのシステムを使い、更新時期に意見を汲み取るべきである。 【報告事項】 ● 公立大学があることの意義が市民にとって有

		<p>意義であることを、例えば報告書や普段の大学の活動、高校の先生から公立大学に行ったら良い勉強ができるという声、まちに若い人が溢れて福知山が活気づいていることなど市民感情として理解できるPRや活動をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 当初は、厳しい財政状況だったこともあり、安い報酬設定で運営されてきたが、より良い大学を作ろうと考えたら大学運営そのものを適正化する必要性があり、報酬というものもその制度自体が職責や行われる業務に相当するものでなければ適切ではない。 ● 今回、このように改訂されることは適正化であると感じる。まだ十分ではないように感じるので、これから大学も様々な整理が進んでいくと思うが、それと合わせて、役員報酬を上げる方向を近いうちに考えても良いと思う。
--	--	--

5 次第

(1) 開会挨拶 青山委員長

(2) 議題：平成30年度公立大学法人福知山公立大学業務実績評価について

業務実績評価書原案に対して、法人からの意見はなかったが、小項目番号19について補足説明を行った。(⇒は法人回答)

(委員)

- 大学の事務システムはパッケージをそのまま使えることが少ないため、納期が遅れたり、バグが出たりすることは多い。
- 入札で発注する場合、RFI・RFCなどベンダーから意見聴取を行い、仕様書を作り、その仕様書に対して入札を行い、業者が決まる流れであると思う。
- その仕様書の中には年度計画通りに30年度までに納品をするかどうか書かれていたかを教えていただきたい。
- この項目は、法人の自己評価では「3」だったものが評価委員会では「2」に下がっている。
- システムの導入が遅れた責任がベンダー側にあるのであれば、工程管理の部分で法人に責任があったとしても評価を見直す必要がある。
- 今後リース契約によって次のシステムへのバージョンアップや、入札で他の会社に変わる時に同じ轍を踏まないようにしなければならない。
- 評価を「3」から「2」に下げられることに納得せずに今後どうすればいいのかを考えていただきたい。

- 新学部の設置認可の作業と同時平行で実施するということは現場で不可能に近いくらい苦勞されている同情と理解はあるが、情報学部ができた時に事務システムが納期どおりに入らなければならないと考えるため、補足説明があればいただきたい。
- ⇒契約書について、契約は10月1日のリース契約であり、契約内容は、相手方の納品準備が終わり、検収が終わった段階から支払いをすることになっている。10月1日まで相手方は約束どおりに準備をしていたが、本学の都合によって延期になってしまった。契約についても4月以前から準備しており、4月に入ってすぐプロポーザルを行い、業者を決めた。契約に関しては3者契約となり、業者のサポートもあったが、本学のシステム導入にかかる事務作業の見通しが甘かったことが原因である。

(委員)

- もう少し人手がいればシステムは導入することはできたと考えるか。
- 働き方改革の中で無理の上に無理を重ねるのは看過できない状態である。
- 人手が不足しているということなら評価委員会として設置団体である福知山市に対して、運営費交付金の措置していただくことなどを主張する。
- システムの導入があるなら半年、1年でも増員できる部分を見込んでシステムの開発や業者に半年間、大学に出向するという契約を結ぶことも考えられる。
- 教職員の苦勞があって、システムの導入が遅れたのは理解できているので、次の機会に活かしていただきたい。

⇒前年度から計画が遅れていたところに担当職員が退職してしまったことによって、起こった事態である。カスタマイズをするとキリがないので、パッケージに対してカスタマイズは何もせずに許容範囲なら受け入れるつもりで現在はシステムの導入を進めている。

(委員)

- 一度、システムを導入して稼動すると、改善するのは中々難しいと思うがどう考えるか。
- ⇒改善するのは難しいとは分かっている。しかし、カスタマイズをしたからと言って、効果が薄いという印象がある。

(委員)

- 日本のどの組織でも、システムをカスタマイズしても、パッケージをそのまま導入しても使っているうちに変えていきたいというニーズがたくさん出てきている。
- ほんの少しシステムを変えるだけで20万円、30万円かかり、それが大学全体となると100万円かかるということもあり、問題となっている。
- ある銀行では、自分のところでシステムエンジニアを雇って、軽微な変更は自分たちで行うことが主流となっている。
- 大学でも、システムが変わる度に変える側も使う側も大きな手間となっている。

(委員)

- 個人的には、パッケージは触るべきではないと考える。

- カスタマイズの度が過ぎると、例えば OS やソフトウェアが更新されたときに使えなくなってしまうことがあり、もう一度新しいシステムを入れることになる。
 - 業務をシステムに合わせてやるという発想を持つべきである。
 - 大学の事務システムは洗練されたパッケージであるという前提で、たくさんの大学法人で使われたことで様々なバグも消滅して、安定して稼動するものを選ばれていると思うので、完成年度迎えるまではこのシステムを使い、更新時期に意見を汲み取るべきである。
- ⇒この先、どうなるか分からないがその時の状況で考えていきたい。

(青山委員長)

- 評価書について、修正箇所はないので、評価書を確定する。
- 私と大久保委員で福知山市長に報告させていただき、法人にも後日通知する。

(3) 報告事項：平成30年度公立大学法人福知山公立大学財務諸表等について

【資料4、5】により、財務諸表及び剰余金に係る事務局確認事項について市から説明。

(委員)

- 大学としては創成期で、出費がかさむ中で色々な努力をされて、新学部の認可申請まで進めているのは大変な努力だったと思う。
- 来期、情報学部が新設されて2学部の組織体制になることを楽しみにしている。
- 厳しい予算、人的な大変さもある中で努力をされていると思う。

(青山委員長)

- 財務諸表について事務局で要件をクリアしていることを確認していただいた。
- 財務諸表の承認に当たって評価委員会としては適当であると判断する。
- 剰余金についても基本的な考え方について事務局で確認いただいた。
- 第1回評価委員会で大学から概要説明をしていただいたが、問題点はなかったので法人の経営努力の結果と判断できる。
- 従って目的積立金として翌年度に繰り越すことについて委員会として適当と判断する。

(4) 報告事項：公立大学法人福知山公立大学役員報酬額の変更について

【資料6】により、公立大学役員報酬額の変更について説明。

(⇒は法人回答)

(委員)

- 期末手当について、役員報酬規程の中で固定されているのか。
 - 人事院勧告の影響を受けたり、住宅手当や扶養手当は加味されるのか
- ⇒期末手当は、役員報酬規程に明記されている通りに支給される。そのため、人事院勧告の影響は受けず、住宅手当や扶養手当は加味されない。

(委員)

- 利益処分のところでは人件費が減少したので、利益が出たと思うが、年間通したときにずっと職員がいたら、相当な赤字になっていたのではないかと。
- ⇒退職した教職員の後任の採用を遅らせたため、4月採用予定で組んでいた人件費との差額が生じた。教育職員について、4月採用予定を7月採用にしたのが1名、9月採用が2名、合計3名を途中採用した。事務職員については、4月末と5月末に退職者がいたが、後任を6月と7月に採用し、4月採用で増員を見込んでいた者を1月採用にした。人件費の減少分は、補正予算として新学部の広告媒体の経費と3号館の施設改修の費用として支出した。

(委員)

- 年収ベースで見せていただいたが、民間企業の役員でこの基準で報酬をもらっている企業がこの地域でどれくらいあるか考えたら少ないのではないかと思う。
- 大学として存続するためにはこの金額でも安いとは思いますが、福知山市は財政状況が厳しく、行政改革を行いコストカットしている中で、市から大学に対して税金が投入されている。
- さらに大学の施設も古い建物がたくさんあるので、そこに対しても市の税金を投入していかなければならないという状況である。
- その中で、赤字を出さないように予算組みをして、予算通りに執行して利益が残るようにしていただきたい。
- 公立大学があることの意義が市民にとって有意義であることを、例えば報告書や普段の大学の活動、高校の先生から公立大学に行ったら良い勉強ができるという声、まさに若い人が溢れて福知山が活気づいていることなど市民感情として理解できる PR や活動をお願いしたい。

(委員)

- 当初は、厳しい財政状況だったこともあり、安い報酬設定で運営されてきたが、より良い大学を作ろうと考えたら大学運営そのものを適正化する必要性があり、報酬というものもその制度自体が職責や行われる業務に相当するものでなければ適切ではない。
- 今回、このように改訂されることは適正化であると感じる。まだ十分ではないように感じるので、これから大学も様々な整理が進んでいくと思うが、それと合わせて、役員報酬を上げる方向を近いうちに考えても良いと思う。

(青山委員長)

- 役員報酬額の変更について、評価委員会として意見書の提出はしない。
- 将来的に大学運営を適正化するプロセスの中で更なる努力を期待することを、今までの委員の発言とともに議事録に残していただくようお願いしたい。

6 その他

(1) 中期目標の変更について

【資料7、8】により中期目標の変更予定について市から説明。

(青山委員長)

- 中期目標の変更予定について、評価委員会からの意見はない。
- 情報学部を設置認可後に改めて評価委員会への意見聴取をお願いしたい。

(2) 令和元年度の業務実績評価全体を通じて

(青山委員長)

- 今年度の業務実績評価を終えての感想や福知山公立大学への期待を皆様からいただきたい。

(委員)

- 業務実績評価は3年目を迎えるが、創成期であったため大変だったと思う。
- 業務については、スケジュールどおりにできるところは実施していただきたい。
- 研究も大切ではあるが、在学生の生活や就職に対するバックアップをしっかりと行っていただきたい。

(委員)

- 私立の大学を公立化されて良くなり、大学当局の努力もよく分かるため今後も引き続き努力をしていただきたい。
- 公立化してから入学した1期生が今年度卒業するが、卒業後の進路が今後の大学を左右すると考える。
- 卒業後の学生の活躍を期待したい。

(委員)

- 中期計画当初は50名定員で200名を目標としてきたが、この目標は必達目標であった。
- この目標が実現目前なのは大きな成果であると考ええる。
- 大学の改善により効果が上がるように優先順位をつけて課題を乗り越えていただきたい。
- そのためにも適正な点検が必要であり、責任を持って成果に結び付くようにしていただきたい。

(委員)

- 学生募集やFD、新学部設置等の関係者の努力は高く評価するべきである。
- 全国から学生が集まり、学び、そしてそれぞれの地域で頑張ってもらうことも大切ではあるが、やはり地域の志願者と就職者を増やしていくことも大切であると考ええる。

- 例えば、福知山市の採用で、地域のことを学んだ人を対象とした地方創生枠の創設を考えることはできないか。
- そのような形で、地域側でも学生がこの地域に留まる仕組みづくりを今後はしていく必要があるのではないか。

(委員)

- 厳しい予算、人員の中でよく福知山公立大学を維持発展させてきている。
- 地方創生は5年前から始まっているが、東京一極集中が5年前と比べて顕著になってきている現状がある。
- 幕末では、各藩に藩校があり、そこで育った人々が明治維新後の社会を支えてきた。
- 現在の福知山公立大学は、全国から学生を集めている。その学生たちがこの地域で学んだことを自らの地域に持ち帰って活躍することは素晴らしいことであるとする。
- 地域の中で活躍、日本全国で活躍する人材を育てる大学になることを期待している。

7 閉会

以上